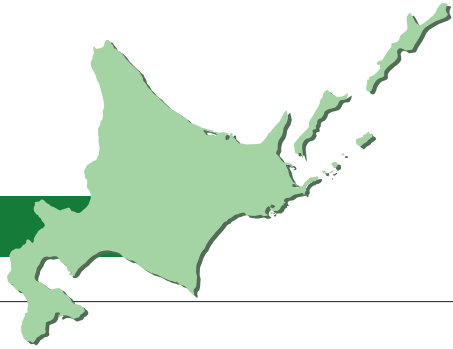
3月の道内景況　情報連絡員レポート

主要DIが大幅に悪化　3項目すべてでマイナス50を割り込む

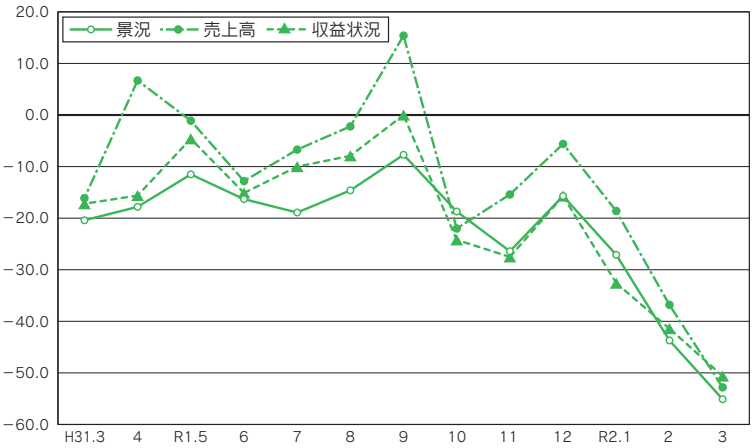


概　況

主要DI値の推移では、「景況」「売上高」「収益状況」のすべての項目で大幅な悪化が見られた。

業種別に見た前月との比較では、製造業・非製造業ともに全項目で前月よりも大きく悪化したが、とりわけ「売上高」の落ち込みが顕著であった。

主要 DI の推移



景況天気図（前年同月比）

	全業種			製造業			非製造業		
	2月	3月	前月比	2月	3月	前月比	2月	3月	前月比
業界の景況	△43.3	△55.1	△11.7 ↘	△42.4	△56.3	△13.8 ↘	△43.9	△54.4	△10.5 ↘
売上高	△36.7	△52.8	△16.1 ↘	△33.3	△50.0	△16.7 ↘	△38.6	△54.4	△15.8 ↘
収益状況	△40.0	△50.6	△10.6 ↘	△33.3	△50.0	△16.7 ↘	△43.9	△50.9	△7.0 ↘
販売価格	△2.2	△9.0	△6.8 ↘	0.0	△9.4	△9.4 ↘	△3.5	△8.8	△5.3 ↘
取引条件	△7.8	△14.6	△6.8 ↘	△3.0	△12.5	△9.5 ↘	△10.5	△15.8	△5.3 ↘
資金繰り	△20.0	△30.3	△10.3 ↘	△18.2	△31.3	△13.1 ↘	△21.1	△29.8	△8.8 ↘
雇用人員	△15.6	△21.3	△5.8 ↘	△12.1	△15.6	△3.5 ↘	△17.5	△24.6	△7.0 ↘

（凡例）　30以上　10～29　9～△10　△11～△29　△30以下

天気図の見方　各景況項目について調査月と前年同月を比較して、「増加」（または「好転」）したという回答（構成比）から「減少」（または「悪化」）という回答（構成比）を差し引いた値（D・I）をもとに作成。天気の表示は凡例のとおりです。

製造業

・新型コロナウイルスによる国内外の観光客、買物客の減少で売上高が激減した。（水産食料品／全道）
・経済の先行き不透明感により、事業継続に支障をきたしている。企業の資金調達や非対面型消費モデルの確立等、各業界間の連携が必要である。（水産食料品／網走）
・新型コロナウイルスによる外出自粛等で自宅での食事が主となり、買い溜めが増えた結果、量販店では前年比売上増となった店舗もあるが、業務店、土産店等は売上が軒並み前年比50％から80％減少し、死活問題になっている。（めん類／全道）
・2月単月の出荷量は味噌・醤油ともに前年比減。2月半ばより新型コロナウイルスの影響で外食、ホテル関連の売上が減少した。3月には学校の一斉臨時休業により学校給食関連の売上も減少すると推測される。（味噌・醤油／全道）
・新型コロナウイルスによる物産展の中止や土産店の営業自粛で売上が減少した。（水産食料品／函館）
・4～5月に予定されている各種イベントは中止が相次ぎ、特に野外でのイベントは飲料水販売のウエイトが大きいだけにダメージは少なくない。収益状況は、現状では多少の落ち込みにとどまっているが、6～7月までこの状態が続いた場合、かなりの悪化が予想される。（飲料／全道）
・製材市況は、カラマツは保合～弱保合。エゾ・トドマツは保合。原木市況は、カラマツは保合。エゾ・トドマツは保合。カラマツ原木は地域によりバラツキがあり、慢性的に不足している。製材の受注は、梱包材、パレットの受注が少なく荷動きは悪い状況。エゾ・トドマツ原木の入荷は概ね順調だが、トラックの手配が出来ない地域がある。いまだに小径材は不足している模様。（一般製材／全道）
・新型コロナウイルスの影響で受注量が減少し、土曜日を生産停止にして生産調整を図っている。（一般製材／札幌）
・急激な観光客の減少により、土産品の菓子箱や段ボール箱等の受注が減少し、経営に大きな打撃を受けている。（加工紙／全道）
・3月の生コン出荷量は約140千m^3で前年同月比82.1％。（窯業・土石製品製造業／全道・生コン）
・新型コロナウイルスの影響で海外から観光客が来ない状況が続いており、建設事業の見直しを含め、仕事が無くなる不安や雇用継続に対する懸念を抱える企業が増えている。（窯業・土石製品製造業／全道・ガラス）
・新型コロナウイルスの感染拡大に伴い、市況環境が急速に悪化し、海上荷動きは減少、新造船の受注回復も遅れている。手持ち工事受注残が2年分を割り込む造船所が増えており、このまま世界同時不況が長期化すれば、既契約船の建造キャンセルなど影響が出ることが予想される。（銑鉄鋳物／全道）
・消費増税に加え、新型コロナウイルスの影響で仕事のキャンセルが発生しており、ますます売上が減少している。先が見えないとの声が多い。（金属機械工作／札幌）
・新型コロナウイルスの影響による企業の設備投資の減少、時期の遅れなどが懸念される。工場閉鎖となれば雇用維持や会社の存続にも多大な影響が生じる。（金属機械工作／全道）
・ホテル等へ食材を卸している食料品加工業は前年比売上4割減。チラシ広告を主とする印刷業者はイベント中止等により、繁忙期にも関わらず2割以上の売上減。（金属機械工作／札幌）

非製造業（卸・小売・商店街・サービス業）

・外出自粛の影響で生活雑貨は買い溜め需要が起こり受注増加。靴履物は中国からの資材調達が困難になり次シーズンの製品製造に影響が出ている。医療機器ではマスクや消毒薬の調達が難しくなっている一方、一般病院の検査自粛で新型コロナウイルス以外の検査キットや試薬の動きが鈍い。事務機器は中国製部品が調達できないため国内での組立が遅れており、納期の遅延が発生している。小売り、サービスの業況悪化が著しく、卸売としても不安な状況が続いている。（各種商品／札幌）
・内食化の強まりを受けてスーパー等の売上が伸びた結果、小売業との取引量は増加したものの、観光関連企業との取引が多いところではほぼ売上がたたず、苦しい状況となった。（菓子／全道）
・3月期は官庁の引き渡し物件が集中するため、売上増加の傾向が多くみられた。（電気資材／全道）
・新型コロナウイルスの影響で売上・来客数が軒並み減となった。（各種商品／滝川）
・新型コロナウイルスの影響で、飲食店・衣料品・家電すべての業種で大幅に売上が減少した一方、外出自粛からスーパー等食料品店のみ売上増となった。3月は需要期だが、遊興費の支出が抑えられた影響でキャッシング売上は大幅に減少。ショッピングの取引条件の低減もあり、収益は悪化している。（各種商品／旭川）
・外出自粛による客足減は想定以上で先行きが見えない状況。平日は人出がほとんどない一方、土曜日のみ、買い溜め目的と思われる買物客が多数来店している。（各種商品／小樽）
・3月取扱高は前年比96％。飲食店・観光温泉ホテル・衣料品等の業種で新型コロナウイルスの影響が大きい。（各種商品／苫小牧）
・イベント中止や来店客減少といった需要の急減により、売上低迷・過剰在庫等の影響が出ている。（各種商品／函館）
・新型コロナウイルスの影響で飲食店売上は三分の一、ホテル・土産店・観光業の売上は十分の一まで落ち込んだ。家賃・水道光熱費の支払いが厳しく、パートや社員を出勤停止にして凌いでいるため、来月から給料がゼロになるところがほとんどである。一部のスーパー、個人経営の鮮魚店等は外出・外食がなくなった反動で売上増となっている。（各種食料品／札幌）
・例年にない少雪暖冬に加え、新型コロナウイルスによる学校・公共施設の閉鎖、外出規制により暖房用燃料、車両用燃料ともに販売量が大幅に落ち込んだ。（燃料小売業／稚内）
・3月の卸値は大きく値下げ改定で推移。小売店の販売価格も下方修正で推移したものの、収支状況では従来と同じく量販店の安値攻勢により厳しい利益口銭の圧縮。新型コロナウイルスの影響で販売量の減少幅が大きく収益も落としている。（燃料小売業／旭川）
・早い雪解けに加え、新型コロナウイルスの影響で公共交通機関を利用せず自転車での移動を考える人が増加したため自転車の売上は好調。在庫があるうちは良いが、その後の入荷が不確定で先が読めない。（自転車・自動車／全道）
・新型コロナウイルスの影響で国内ツアーはほぼなくなり、外国人観光客にいたっては来店は皆無であった。（鮮魚／釧路）
・組合全体の前年比は96.7％。スーパー・ホームセンターは前年比103％。スーパー・ホームセンターを除く一般店の前年比は77.4％。客足が激減したとの声が多く、夜の居酒屋やスナック等に関しては死活問題となっている。（各種商品／芦別）
・ガソリン等石油製品の3月の販売動向を見ると、一部地域に寒波等による需要増が見受けられるが、予想をはるかに下回る結果となった。新型コロナウイルスによる需要減が要因だが、依然続く節約基調も重なり、定量買い、定額買いに顕著に表れている。原油価格の動き等を受け、元売仕切り価格の変動が激しかったことから、末端販売店にあっては、厳しい競争環境等を背景に確実な転嫁ができていない状況。競争環境の激化から値上げができず、一部には量は出ても収益増にまでは結びついていないというケースも多くなっている。（燃料／全道）
・繁忙期にも関わらず、直近の小売フェアは40％程度の成約にとどまり、新型コロナウイルスを懸念してか短時間での商談・契約が多かったとのことである。（中古自動車／札幌）
・藤丸百貨店の2月売上高は4億936万円（帯広市／前年同月比6.5％減）。新型コロナウイルスによる外出自粛要請が大きく影響し、来館者数は減少した。3月の共通駐車券の利用も大幅に減少しており、新型コロナウイルスの影響の長期化が懸念される。（帯広市／帯広）
・新型コロナウイルスの影響で来街者が激減し、大変厳しい状況に置かれている。（網走市／網走）
・緊急事態宣言を受けた営業自粛や時短営業に加え、外出を控えていた利用者も多く2月下旬から3月上旬までは20％程度の売上減となった。（公衆浴場／全道）
・道内の中小IT企業はシステム開発投資が堅調に伸びた一方、人件費の高騰により微増収減益で決算を迎えた企業が多い。新型コロナウイルスの終息が見えない新年度は、案件の発注元である首都圏の大手企業の業績悪化が避けられない状況で、システム投資予算の中断や縮小・延期となるとその影響は川下の道内中小IT企業を直撃することから、発注元の業界動向を注視している状況。道内中小IT企業は従来から人手不足、人材確保を課題としてきたが、新型コロナウイルスの感染拡大により企業収益が大きく悪化する恐れから、採用活動の一時休止や採用数の抑制により当面の間現状体制を維持する中小IT企業が多くなっている。（ソフトウェア／全道）
・新型コロナウイルスの影響により宿泊予約のキャンセルが相次ぎ、新規予約も入らない状態で、3月は7～9割の売上減少が予想されるなど損害は甚大である。（旅館／音更）

非製造業（建設・運輸業）

・新型コロナウイルスの影響により、民間では計画していた案件が中止になったり、様子を見るため一時的に案件を停止する傾向がみられる。特に観光業、宿泊業、飲食業に関連する工事は見通しが立たない状況が続く。（電気工事／全道）
・新型コロナウイルスの更なる長期化による原材料や資材の価格上昇・調達難、工期遅延や受注減少による資金繰り悪化が懸念される。（左官工事／全道）
・新型コロナウイルスの感染拡大で商品の受注が停止し入手困難となっており、一部では経営にも影響が出始めている。住宅トイレの便器は中国工場で生産しているため、受注停止により住宅が完成しない事態となっている。（管工事／名寄）
・2月以降、新型コロナウイルスの影響によるイベント中止、外食産業の利用減少、公共施設の閉館等で各種の配送停止・業務打ち切りが続いている。ネットスーパー利用者は増加しているが、売上減をカバーするものではない。引越繁忙期ではあるが例年の受注件数より落ち込んでいる。（一般貨物自動車運送／全道）
・青果物は先月比で若干荷動きがよくなったが、域内輸送については前月同様、荷動きの鈍化傾向に変わりはない。新型コロナウイルスについて、食品関係は影響が少ないものの、工業製品において部品の生産拠点を海外に依存しているメーカーは減産せざるをえず、多大な影響を受けている。原油価格の大幅な値下がりは運輸業界においてはプラス要素。（一般貨物自動車運送／石狩）
・売上高は前年同月比37.5％減少。乗務員数は前年同月比5.8％減少。2月分チケット取扱高は前年同月比4.8％増加。（一般乗用旅客／旭川）